

久米賞 佳作 受賞作品

希望

郡山ザベリオ学園中学校

今日も曇り

苦しい・・・

今、この刹那

世界中から悲鳴が聞こえる

それを聞いてかわいそうだとか

それを聞いて怖いだとか

命が脅かされている中

いつヒーローは現れるのだろうかとか

今日も俺は現実から目をそらすのか

そう心が閉ざされていく中

家の窓の内側から見上げた空は

光の差し込まない曇り空

無力

たとえば

日本人の半数がかかるがんによって

苦しんでいる人の様子を

ニュースで見ることがある

あるいは身近でも

明確な治療法がない今

患者とその身内は

極わずかな希望にただすがるしかない

自分が何もできないことに

もどかしさを感じながらも

平等に与えられた時計の針は

勝手に進んでいった

我慢比べ

諦めること

それは実に簡単だ

それを学んだのは

小学校低学年

スポーツを始めたころ

だけど諦めたくないことだってある

それを学んだのは
小学校高学年

当時好きだった

漫画の主人公は絶対に諦めなかった

諦めずに努力する姿は

心を熱くする

弱い自分とはお別れ

ゲームの目の前で何回も自分に抗った

天使のはしご

他力本願

それを悪いとは思わない

他人に頼ることだって

わずかな希望に望みをかけることだって

大切なことだ

だが本当にそれで終わりだろうか

自分にできることはそれだけだろうか

希望がわずかなら

その希望を1パーセントでも

大きくできないのか

それが俺のたどり着いた答えだった
どれだけ困難なことかはわからない
ただ、不可能でない限り

希望はつくれるはずだ

家の外からふと

光が差し込んだ気がした

光となる

中学1年生のころ

医者という職業に憧れた

希望を広げることができからだ

大げさだ

きれいごとだ

そう思うかもしれない

命だって救えないことはあるだろう

それでも

あきらめるつもりは毛頭もない

空は・・・

まだ雲が少し漂っている

でも散りばめられた光が

道を照らしていた

《作品の意図》

今回のテーマはタイトルの通り「希望」です。

これは希望とは何か、今、希望はあるのかを考えていた。

過去とそれを受けて自分の出した答えにたどりつくまでを詩に書きました。

心の変化が空の模様などに顕著に表現しました。

- 題名 1. 今日も曇り 2. 無力 3. 我慢比べ 4. 天使のはしご
5. 光となる

《作品の寸評》

一篇目の「今日も曇り」では、この時代の閉塞感を「光の差し込まない曇り空」と例え、現実から目をそらしたい自分の感情をうまく表現している。

二篇目の作品では、過去の自分の経験から学んだ、諦めることは簡単、でも諦めたくない気持ちを大切にしたいという想いを「我慢比べ」というタイトルで表すことで、弱い自分に打ち勝とうとする現在の自分を浮き立たせている。四篇目は、わずかな希望でも逃さずに、大切に、少しずつでも大きくしたいという願いを、終末の一行に、「窓から差し込んだ光」として描き、「天使のはしご」という題名に意味を持たせている。

差し込んだ一本の細い光とは対照的に、最後の詩は、自らがその希望の光になって見せるといふ強い決意にあふれており、悩みながらも着実に前進してきた筆者の心の成長が伺える作品となっている。「散りばめられた光」が照らす中、中学一年の頃から思い描いてきた道を、困難な現実に惑わされることなく一步一步進んで欲しいとエールを送りたくなる、まさに「希望」の詩である。

(審査員／吉井美香)